

令和2年度 社会福祉法人大子町社会福祉協議会 事業報告

長寿化・少子化による超高齢社会の中で多様化するニーズに対し、町民の理解と協力を得ながら、福祉・保健・医療関係者、各種団体・施設・ボランティアとの連携を図り、子どもから高齢者、障がい者“だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちづくり”を目指し、各事業を実施した。

I 地域福祉事業

1 理事会・評議員会・監査の実施

理事会・評議員会・監査と次のとおり開催した。

- (1) 理事会 3回 (6月15日、1月18日、3月17日) ※うち2回書面決議
- (2) 評議員会 3回 (6月29日、1月27日、3月24日) ※うち2回書面決議
- (3) 監査 1回 (6月3日)

2 社会福祉協議会の基盤の強化

- (1) 社会福祉協議会の職員31名を配置し、複雑多様化する社会福祉の課題に対応するため、区長・民生委員児童委員・ボランティアを始め、保健・福祉関係者の協力を得ながら福祉の向上に努めた。
- (2) 自主財源確保のため、全戸会員を目標に賛助会費として一般・特別会費徴収に努めた。

<地区別実績額>

(単位＝円)

地区名	世帯数 ・口数	金額	内 訳		
			普通会費 700円	特別会費 1,500円	福祉施設 その他
			世帯数・口数	世帯数・口数	件数
大子	1,384	1,012,600	1,333	53	—
依上	507	362,900	497	10	—
佐原	395	283,700	386	9	—
黒沢	492	362,000	470	22	—
宮川	620	445,200	606	14	—
生瀬	588	418,800	579	9	—
袋田	603	438,100	583	20	—
上小川	611	437,300	599	12	—
下小川	171	123,700	166	5	—
その他	50	76,600	1	13	36
合計	5,421	3,960,900	5,220	167	36

3 ボランティア活動の推進

- (1) 社会福祉についての理解と関心を高めるための啓発に努めるとともにボランティアの育成及び実践活動の推進を図った。
- (2) ボランティア連絡協議会を開催し、町内のボランティア活動を行っている個人・グループ同士の情報交換等を行い、ボランティア活動を機能的に推進できるように努めた。
・ボランティア連絡協議会連絡会開催日：6月30日
- (3) ボランティア活動に対する相談支援や研修会等を行い、ボランティア活動の資質の向上に努めた。
- (4) 安心してボランティア活動が行えるようボランティア活動保険の加入推進と保険料の一部助成を行った。
・登録ボランティア数：268名　・ボランティア活動保険料助成件数：154件
- (5) “子どものときから福祉の目を”をスローガンのもと、町内の全小・中学校を児童・福祉のボランティア活動協力校に指定し、助成金の交付や出張講座、相談支援、研修会等の情報提供を行い、福祉教育の推進に努めた。
- (6) ボランティアが読む「声の広報だいご」のCDを作成し、月1回町内希望施設に配布した。

4 地域福祉の推進

(1) 地域福祉活動推進事業

全地区で区長、民生委員児童委員が中心となり、地域における特性を生かして実施されているひとり暮らし高齢者等の配食サービスや会食会、訪問活動に補助金を交付し、地域住民の交流の機会の確保や地域福祉の充実に努めた。

・地域福祉活動推進会議開催日（補助金交付）：9月17日

<地区別活動実績>

地区	実施日	内 容
大 子	11月14日	ひとり暮らし高齢者配食
依 上	11月24日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
佐 原	12月7日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
黒 沢	11月24日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
宮 川	11月28日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
生 瀬	11月16日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
袋 田	11月6日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
上小川	11月27日	ひとり暮らし高齢者食品・日用品配付
下小川	9月21日	敬老祝品配付

(2) 在宅介護用品等貸出事業

車いす対応福祉車両、介護用ベッドなどの無料貸出を行い、在宅介護者の負担軽減に努めるとともに要介護者が自宅で安心して生活し続けられるよう支援を行った。

<福祉車両（車いす対応車）貸出状況>

品名	総数	貸出回数
福祉車両（車いす対応）	1	24

<介護用ベッド、車いす貸出状況>

品名	総数	新規貸出件数	返却件数	本年度末貸出中件数
ギャッジベッド	53	2	1	43
車いす	42	30	29	36

(3) 権利擁護推進事業

- ひとり暮らし高齢者や障がい者等を対象に、緊急時に重要書類等を一時的に預かることで、安心して福祉サービス等を利用できるよう支援した。
- 判断能力が不十分な方を保護するため、成年後見制度の利用を希望している親族等からの相談に応じられる窓口を設置した。

<利用状況>

前年度末契約数	本年度新規契約者数	本年度解約者数	本年度末契約者数
7名	4名	7名	4名

(4) “安心箱” 配付事業

- 75歳以上のひとり暮らしの方へ、緊急入院や災害時に必要な物を入れ、保管しておく「安心箱」を民生委員児童委員の協力を得て配布した。(配布件数49名)
- (5) 社協の事業をまとめた「社協パンフレット」を活用し、社協事業の啓発に努めた。

5 高齢者福祉の推進

(1) あんしんコール事業

ボランティアの協力を得て、プライバシーを守りながら、ひとり暮らし高齢者等と定期的に会話をする「あんしんコール」を実施し、在宅生活の不安の解消に努めた。

<活動実績>

開設日	開設日数	利用者数	延件数
毎週月・水・金曜日	146日	41名	1,287件

- (2) 共同募金配分金を財源に老人クラブ連絡協議会と共催し、ゲートボール・輪投げ・ペタンク(クローケー・グラウンドゴルフ大会は中止)を開催し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり等に努めた。
- (3) 共同募金配分金を財源に各地域の単位老人クラブと連携し友愛訪問活動を実施し、ひとり暮らしや寝たきり高齢者となっても住み慣れた地域で、同世代の仲間同士と励まし支えあいながら住み続けられるよう地域づくりの推進に努めた。 ・訪問実人数：237名

6 障がい者(児)福祉の推進

- (1) 共同募金配分金を財源に山のつどい及び障害者スポーツ大会等の協力援助を行うとともに、障がい者2団体の育成援助等、障がい者(児)福祉の充実に努めた。

7 母子(父子)福祉の推進

- (1) 共同募金配分金を財源にひとり親家庭の小学校入学児童3名に対しお祝いを贈呈した。

8 児童福祉の推進

- (1) 共同募金配分金を財源に「子育て十章」を更生保護女性の会と共同で作成し、各保育所(園)・幼稚園・小学校の保護者に配布し、子育て支援に努めた。

9 福祉団体との連携及び事業への協力援助

(1) 大子町老人クラブ連絡協議会、大子町身体障害者福祉協議会、大子町遺族連合会、大子町更生保護女性の会、福祉4団体の事務局として、社協活動との連携を図りながら福祉団体の支援に努めた。

10 まいんボランティアセンターの運営

大子町災害ボランティアセンターから令和2年1月6日に“まいんボランティアセンター”へと名称及び活動内容を変更し、継続してセンターを運営した。

センターでは応急仮設住宅や町営住宅、被災した住宅に避難している被災者宅を訪問し、それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、孤立防止等のための見守り支援や、日常生活上の相談を行うとともに、被災者を関係支援機関へつなぐ等の支援を実施した。また、被災した家屋の復興支援等の受付や調査も継続して実施した。

○対象世帯数

- ・ 応急世帯数 3世帯
- ・ 町営住宅 10世帯
- ・ 在宅避難 7世帯
- ・ 民間賃貸家賃補助 5世帯

○訪問回数 206件

○配置職員等

- ・ よりそい訪問員 4名
- ・ 事務員 2名

11 共同募金運動

共同募金配分金の財源確保のため、区長会及び行政連絡班長や女性の会等多くの関係者の協力を得て、赤い羽根募金・歳末たすけあい募金運動に努めた。

<赤い羽根共同募金地区別実績額>

(単位=円)

地区名	実績額	付記
大子	810,500	
依上	301,200	
佐原	235,800	
黒沢	297,600	
宮川	371,400	
生瀬	346,200	
袋田	362,400	
上小川	367,200	
下小川	103,200	
法人募金	695,000	町内66か所企業
一円玉募金	52,473	各小中学校・清流高校
職域募金	72,376	各小中学校・清流高校・振興公社・役場・社協職員 他
その他	89,120	募金箱等
合計	4,104,469	

<歳末たすけあい募金地区別募金実績額>

(単位=円)

地区名	金額	地区名	金額
大子	404,900	生瀬	173,400

依 上	150,700	袋 田	181,300
佐 原	118,200	上小川	183,600
黒 沢	148,800	下小川	51,600
宮 川	185,700	その他	7,057
		合 計	1,605,257

<赤い羽根共同募金配分事業内容>

(単位=円)

区 分	配分額
老人福祉活動費	199,089 円
障害児・者福祉活動費	30,000 円
児童・青少年福祉活動費	11,440 円
母子・父子福祉活動費	30,000 円
福祉育成・援助活動費	2,724,577 円
ボランティア活動育成事業費	546,400 円
合 計	3,541,506 円

<歳末たすけあい募金配分事業内容>

(単位=円)

内 容	金 額
温かいお正月事業 (障害福祉サービス事業所 6施設・ 高齢者福祉施設 5施設)	554,986 円
一人暮らし高齢者へのおせち品配布 (80歳以上) ※タオル・カレンダーも配布 492名	939,369 円
余剰金 (次年度へ繰越金)	110,902 円
合 計	1,605,257 円

<災害義援金の受付業務>

災害義援金について、義援金の募集、並びに受付業務を行った。

- (1) 平成28年熊本地震義援金
- (2) 平成30年北海道胆振東部地震災害義援金
- (3) 平成30年7月豪雨災害関係義援金
- (4) 令和元年台風15号・台風19号・大雨千葉県災害義援金
- (5) 令和元年8月佐賀県豪雨災害義援金
- (6) 令和2年7月豪雨災害義援金 (熊本県共同募金会募集)
- (7) 令和2年7月豪雨災害義援金 (中央共同募金会募集)
- (8) 令和3年2月福島県沖地震災害義援金

1.2 善意銀行の運営

- (1) 善意を持って寄せられる金品や物品の受領並びに払い出しを行った。
- (2) 手作りマスク製作配布事業

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、マスク入手が困難な状況が続いている中、集団生活を行う子どもたちの感染リスクの回避と不安の解消を目的に、ボランティアの協力を得ながら手作りマスクを製作し、町立小学校の低学年児童に配布した。

(3) 令和元年台風第19号災害見舞金の支給

- ・支給件数 全壊世帯 (50,000円) 23世帯
- 半壊世帯 (20,000円) 320世帯

(4) フードバンク事業の利用支援として、フードバンクより食料品等が送付される際の送料に対して助成を行った。

(5) 生活つなぎ資金の貸付を行い、生活安定と自立を支援した。

<預託状況>

物品件数	金銭件数	金額	備考
12件	29件	2,050,318円	一般預託金 (29件) 2,040,318円 指定寄付 (1件) 10,000円

<払出状況>

物品件数	金額	備考
11件	10,782,650円 指定寄付分 10,000円	安心箱配付事業 (バスタオル・衣装ケースを配分) 44,495円
		子育て支援 (幼稚園・保育所 (園)・子育て支援センターへ遊具・玩具を配分) 346,920円
		手作りマスク作成材料費 214,165円
		車いす対応福祉車輛経費 143,843円
		フードバンク (5件) 7,050円
		火災見舞金 (5件) 130,000円
		水害見舞金 7,550,000円
		まいんボランティアセンター 1,286,509円
		生活つなぎ資金貸付金 931,000円
		その他(事務消耗品代等) 128,668円
		(指定寄付) 太子福祉作業所 10,000円

<生活つなぎ資金貸付状況>

(単位=円)

前年度末貸付残高	本年度貸付額	本年度返済額	本年度末貸付残高
2,001,349円	931,000円	714,194円	2,218,155円

○貸出件数 35件

1.3 日常生活自立支援事業

認知症の高齢者や知的または精神的に障がいのある方など判断能力が不十分で、かつ親族などの援助が得られない方に対して、生活支援員が福祉サービスの利用手続きの援助や日常生活の金銭管理援助及び書類等の預かりサービスを行い、地域で自立した生活が送れるよう支援した。

<利用状況>

前年度末契約数	本年度契約者数	本年度解約者数	本年度末契約者数	訪問件数
16名	3名	0名	19名	584件

1 4 生活福祉資金貸付事業

(1) 民生委員児童委員の協力を得て、生活福祉資金貸付、償還の相談に応じた。

○総合支援資金（特例貸付含む）

- ・貸付件数 31件
- ・貸付額合計 23,424,585円（貸付利子を含む）
- ・3月末未償還金残高 18,964,585円（滞納額を含む）

○福祉・教育・小口資金（特例貸付含む）

- ・貸付件数 84件
- ・貸付額合計 22,675,394円（貸付利子を含む）
- ・3月末未償還金残高 25,407,920円（滞納額を含む）

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付

○特例緊急小口資金

- ・貸付件数 59件
- ・貸付額合計 11,620,000円

○特例総合支援資金 ※延長貸付含む

- ・貸付件数 46件
- ・貸付額合計 23,640,000円

○再貸付

- ・貸付件数 7件
- ・貸付額合計 3,900,000円

※貸付金の財源は全額公費

1 5 介護用品事業

(1) 介護用品宅配事業

高齢者等に対し宅配により毎月の上限額の範囲内で介護用品の現物を支給した。

(2) 介護用品購入費助成事業

高齢者等を介護している方に対し上限額を範囲内で介護用品の購入費用の全部若しくは一部を助成した。

<内訳>

事業名	申請件数	助成額
介護用品宅配事業	662件	12,836,219円
介護用品購入助成事業	320件	10,513,683円
合計	982件	23,349,902円

1 6 地域支え合いサービスセンター「さとも」

非営利的な有償による訪問サービスを行う住民参加型福祉供給組織「地域支え合いサービスセンターさとも」を設置し、高齢者や障がい者等の家事援助・話し相手等の様々な支援を行い、在宅での日常生活の充実を図るとともに、本人・家族の身体的・精神的負担の軽減に努めた。

<地域支え合いサービスセンター「さとも」>

利用会員数（退会者を含む）	協力会員数（退会者を含む）	活動延回数
49名 内訳） ・要支援者：23名 ・要介護者：12名 ・総合支援対象者：2名 ・障がい者：2名 ・その他：10名	30名 内訳） ・男：5名 ・女：25名	364回
活動延時間数		942.0 時間
（内訳） 食事の準備・片付け		50.4 時間
住居内の掃除、整理整頓		525.2 時間
生活必需品等の買い物代行		184.5 時間
外出時の付添い		30.9 時間
衣類の洗濯・補修		27.3 時間
その他会員間で行うことがふさわしい支援		123.7 時間

1 7 訪問介護等事業所開設準備事業

令和3年度より旧浅川小学校に訪問介護事業所を開設するための業務を行った。

II 障がい福祉サービス事業

1 8 就労継続支援事業の運営

障害者総合支援法に基づき、在宅の知的・身体・精神障がい者が通所し、日常生活に必要な社会性の訓練・軽作業を継続的に行い、自立と社会生活への適応力を養えるよう就労継続支援事業所（太子福祉作業所と若草共同作業所）の運営に努めた。

<利用状況>

太子福祉作業所（定員 20 名）		若草共同作業所（定員 20 名）	
利用申込者数	16 名	利用申込者数	21 名
開所日数	198 日	開所日数	243 日
延利用者数	2,382 名	延利用者数	3,176 名
1 日平均	12.0 名	1 日平均	13.1 名

1 9 特定相談支援事業所の運営

障害者総合支援法に基づき、利用者が有する能力や適性に応じ、自立した日常生活・社会生活を営むことができるように配慮して相談に応じた。

○契約件数 43件

20 障がい児日中一時支援事業

Ⅲ 受託事業

2.1 大子町文化福祉会館『まいん』指定管理事業

- (1) 町民がいつでも安全に気持ちよく利用できるよう施設の適正な管理に努めた。
 (2) 大子町文化福祉会館「まいん」に設置している全自動血圧計を活用し、「まいん」利用者の健康管理に努めた。

<部屋別貸館状況>

区分	文化ホール	観光交流 ホール	小会議室	高齢者 活動室	相談室	学習室	子育て 支援室	展示 コーナー	合計
件数	36	509	16	292	133	—	424	8	1,418
人数	2,402	6,165	266	1,018	149	0	10,149	648	20,797

※2階小会議室は、令和2年5月以降、子育て支援事業専用で使用。

2.2 ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等が、身近な地域でボランティアと一緒に生きがいと健康づくりの企画運営を行う仲間づくり活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や孤独感の解消等が図れるよう活動支援や新規サロンの立ち上げ支援を行った。

- (1) 実施個所数 19カ所（中央型9カ所・小地域型10カ所）
 (2) 申込者数 521名
 (3) 参加延人数 3,784名

<ふれあいいきいきサロン別活動実績>

名称	場所	実施日	実施回数	申込者数	参加延人数
ダンスくらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	26	16	271
絵手紙くらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	11	8	21
書道くらぶ	町文化福祉会館	毎月第2金曜日	7	8	32
うたごえくらぶ	町文化福祉会館	毎月第2・4木曜日	11	8	66
手芸くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3金曜日	7	26	142
囲碁くらぶ	町文化福祉会館	毎週月曜日・金曜日	58	26	221
童謡くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3水曜日	6	11	28
将棋くらぶ	町文化福祉会館	毎週木曜日・日曜日	55	17	344
いきいきヘルス体操	町文化福祉会館	毎週木曜日	25	—	705
町付地区いきいきサロン	黒沢コミュニティセンター	毎月第3火曜日	13	58	178
上郷いきいきサロン	上郷集会所	毎月第2木曜日	5	38	54
佐原ふれあいいきいきサロン	佐原コミュニティセンター	毎月第2・4火曜日	13	31	123
下野宮東区いきいきサロン	下野宮東区集会所	月1回	13	47	187
いきいきサロンなませ	生瀬コミュニティセンター	第2火曜日	10	31	121
いきいきサロン前冥賀	前冥賀集会所	月1回	12	37	111
清流わかばサロン	町内施設のグラウンドゴルフ場	月4回	31	33	610

元気アップ下小川	下小川コミュニティセンター	第3火曜日	17	66	236
近町ふれあい・いきいきサロン	近町公民館	第1金曜日・第3土曜日	17	36	244
おとめ会	上町公民館	第2月曜日	19	24	90

※いきいきヘルス体操は、申込方式ではないため申込者数の記載なし。

2.3 大子町高齢者大学運営

単位老人クラブからの推薦及び一般公募により大学生を対象とした高齢者大学を設置し、高齢者の生涯学習・生きがい・健康づくりの推進のため、8回の学習会等を開催した。

<月別実施状況>

月日	学 習 内 容・講 師	場 所	参加人数
6月18日	令和2年度（第53回）入学式 第1回学習会 町の高齢者福祉・社協について	町文化福祉会館	33名
7月28日	消費者相談について 消費生活相談員	町文化福祉会館	34名
8月24日	地域おこし協力隊の講演 協力隊員 5名	町文化福祉会館	38名
9月24日	介護予防について 地域包括支援センター シルバーリハビリ体操 大子町シルバーリハビリ体操指導士会	町文化福祉会館	39名
10月29日	災害への備えについて 防災士 益子さや子氏	町文化福祉会館	33名
11月30日	お薬講座 茨城県薬剤師会ビックママあこ薬局	町文化福祉会館	33名
12月14日	感染予防について 健康増進課	町文化福祉会館	33名
1月28日	<開催中止>高齢者の交通安全について		
2月22日	<開催中止>まちの研究室の活動について		
3月22日	令和2年度（第53回）卒業式	町文化福祉会館	34名

2.4 心配ごと相談事業の推進

- (1) 町民の生活上の悩みごと、心配ごとの相談の場として第1・3水曜日の午後に心配ごと相談所を開設し、問題解決への方向性を助言、指導を行った。
- (2) 法テラスとの連携を強化し、相談支援体制の充実に努めた。

<開設状況>

開設月数	開設日数	取扱件数	出場相談員延人数
12	22	5	41

<相談種別件数>

相談事項	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	
	生計	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	母子福祉・児童福祉	教育・青少年	心身障害(児)福祉	父子福祉・母子福祉	高齢者福祉	苦情	その他		
	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	
処理状況	解決																					
	再来																					
	民生委員 他機関					2												1				3
	その他					1															1	2

25 家族介護者交流事業

新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施

26 放課後児童クラブ事業

保護者が就労等により昼間家庭にいない町内の小学校に通う児童を対象に、放課後や土曜日、長期休業期間等の学校休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、児童の健全な育成が図れるよう努めるとともに保護者の就労と子育ての両立支援を行った。

<だご放課後児童クラブ開設状況>

年間開設日数													(単位=日)	
平日 (放課後~18:00)				土曜日 (8:00~18:00)				長期休業日 (7:30~18:00)				合計		
180				21				52				253		
児童数 (年度末) () 内長期のみ利用者数													(単位=名)	
1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計		
6 (1)		14 (4)		16 (2)		11 (8)		9 (2)		5 (1)		61 (18)		
月別利用人数													(単位=名)	
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
664	558	752	686	639	687	708	635	700	521	598	751	7,899		

27 子育て支援センター事業

(1) たんぽぽ広場を開催し、製作やリズム遊び、季節の行事を行った。

(2) 保護者からの要望に対応し、ボランティア等の協力を得て読み聞かせ、ママヨガ、月齢

別おしゃべりタイムを開催し、子育て支援の充実に努めた。

<たんぽぽ広場>

開設日		開設時間		登録人数								
毎週火・金曜日		10:00~11:00		親40名・子47名								
月別利用人数 (単位=名)												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	67	157	74	129	175	186	204	42	0	147	1,181

- (3) 0歳~就学前の子どもと保護者や妊婦等が地域で安心して子育てができるよう専門職による相談支援や一般開放を行い、同年齢の子育て中の方々と交流や情報交換ができる場を提供し、子育てしやすい環境整備に努めた。

<一般開放>

開設日		開設時間										
毎週月~金曜日および土曜日 (不定期)		9:30~14:00										
月別利用人数 (単位=名)												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	40	152	75	104	67	96	108	35	54	118	849

<相談支援>

開設日	開設時間	相談人数	相談件数
毎週月~金曜日	9:00~17:00	15名	28件

28 ファミリーサポートセンター事業

- (1) 子育ての援助をしたい人と援助を受けたい人がお互い会員となり、子どもたちの健やかな育ちを地域ぐるみで助け合うため、ファミリーサポートセンターを設置し、保護者の就労と子育ての両立支援を行った。
- (2) 毎月第1月曜日に子育て支援センター利用者や登録会員を対象に定期説明会や勉強会を開催し、事業の利用促進に努めた。

<活動状況>

利用会員数	協力会員数	両方会員数	利用人数	利用件数	利用時間数							
19名	45名	6名	0名	0回	0時間							
月別利用人数 (単位=名)												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2.9 生活支援体制整備事業

- (1) 日常生活上の支援を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる多様な主体による多様な生活支援、介護予防サービスの提供体制を構築するため、15名の委員を委嘱し大子町生活支援・介護予防体制整備推進協議会を1回開催した。 ※新型コロナウイルス感染症拡大により開催回数減少
- (2) 生活支援コーディネータを配置し、協議会と協力しながら、ニーズとサービスのコーディネータ機能を担い、支援体制の充実・強化に努めた。

IV 共通

3.0 行政機関、団体及び福祉施設との連携強化

3.1 啓発事業

- (1) 地元新聞2社の協力により事業等の周知・報告を行った。
- (2) 公式ホームページを活用し、社協活動の周知を行った。
- (3) 広報「福祉だいが」を年2回(1回7,000部)発行し、住民に親しまれるよう紙面の充実を図り、全戸配布することにより社会福祉協議会の活動内容の周知に努めた。

3.2 総合相談支援

福祉に関することをはじめ、日常生活に関することなど、福祉の専門職が様々な相談に応じ、共に解決に向かえるように支援を行った。

3.3 職員の資質向上のための取り組み

3.4 その他